

# 19世紀初頭ロード・アイランドの 社会的分業＝市場構造

中 村 勝 己

## 1

ニュー・イングランド綿業が、アメリカ産業革命の key industry であったことはよく知られている。第8回センサス(1860年)——綿業において工場制度がほぼ成立した時期——によれば、繊維工業は、工業投資総額の約19%・工業労働者数の約15%・工業生産額の約18%を占め、その中で綿業は最も重要な工業部門であった<sup>1)</sup>。次に綿業の地域的分布を見ると、1860年にはニュー・イングランドは全国の経営数の約52%・投資額の約68%・紡錘数の約73%・織機数の約73%・および年生産価額の約68%を占めていた<sup>2)</sup>。さらにこれを州別に見てみよう、第7回センサス(1850年)によれば、ロード・アイランド綿業はマサチューセッツに次ぎ、全国の工場数の14.5%、資本総額の9%、労働力の11%、生産額の11%を占めて、ニュー・ハンプシャーにやや劣り、コネティカットにまさる地位を占めていた<sup>3)</sup>。また第8回センサスによれば、ロード・アイランド綿業は全国の工場総数の約17%、資本総額の約10%、紡錘数の約15.5%、織機数の約13.5%、労働者数の約11.5%、生産価額の約10.5%を占めていて、マサチューセッツに次ぎ、ニュー・ハンプ

1) *The Eighth Census of the United States, 1860. Manufactures*, pp. 733—742. 宮野啓二「南北戦争前夜におけるアメリカ工業——1860年工業センサスの統計的整理を基礎として——」(『社会科学研究』第1巻第6号)p. 165.

2) *The Eighth Census, Manufactures, Introduction*, p. xxi; 宮野啓二, 前掲論文, p. 170.

3) DeBow, J. D. B., "Statistical View of the United States", *Compendium of the Seventh Census*, 1854. table CXCVI, p. 180.

4) *The Eighth Census, Manufactures, Introduction*, p. xxi; 宮野啓二, 前掲論文, p. 170.

シャーにほぼ比肩する地位を占めていた<sup>4)</sup>。本稿はこのロード・アイランドの綿業をとりあげてロード・アイランドの“maritime economy”から大工業への移行＝“industrialization”(「産業革命」)期におけるその役割を、分業＝市場構造の転換との関連において明らかにしようとするものである。

## 2

マサチューセッツの教権支配から離脱したセバラティストによって建設された4つの定住地から発展したロード・アイランド<sup>5)</sup>は、自然的条件の制約によって農業の発展には一定の限界があった。河川流域の若干の豊かな牧草地と海岸および丘陵

5) MacDonald, William, ed, *Select Charters and other Documents illustrative of American History, 1606—1775*. New York, 1906. No. 18, pp. 91—93, No. 27, pp. 125—133; Andrews, Charles M., *The Colonial Period of American History*. 4 vols., New Haven, 1934—7, Vol. II, pp. 1—16; Greene, Welcome Arnold, *The Providence Plantations for Two Hundred and Fifty Years: An Historical Review of the Foundation, Rise, and Progress of the City of Providence...*. Providence, 1886. Part I, chapters I—X, Part II, chapters V, VI, XIV, XVIII, XIX, Part IV, chapters I—VII; Harris, Marshall, *Origin of the Land Tenure System in the United States*. Ames, 1953, pp. 109—113. など; Akagi, Roy Hidemichi, *The Town Proprietors of the New England Colonies*. Philadelphia, 1924. pp. 22—25, 59—60, その他随所; Coleman, Peter J., *The Transformation of the Rhode Island, 1790—1860*. Providence, R. I., 1963. (本稿はこれに負う所が多い); Bidwell, Percy Wells, *Rural Economy in New England at the Beginning of the Nineteenth Century*. New Haven, 1916, pp. 277—293; Brennan, Brother Joseph, *Social Conditions in Industrial Rhode Island: 1820—1860*. Washington, D. C., 1940; 鳥羽欽一郎「19世紀初頭南部ニュー・イングランド地方における農村構造」『社会経済史学』第23巻第3号, pp. 17—58; 中村勝己『アメリカ資本主義の成立』(近刊)第3篇, など参照。

の豊かな農場地帯を除くと岩石が多く、地層の薄い庚せた丘陵地帯が多く、酪農・牧羊、木材・石材伐出しなどを除くと見るべき農民収入源に乏しく、農業の発展は頭打の状態にあった。内丘陵地への移住も有効な解決とはならなかった。天然の港湾に恵まれたロード・アイランドの住民が農業から沿岸商業・漁業・海運業に経済活動の中心を移したのは自然であった。プロヴィデンスやニューポートなどの海港を中心とする沿岸商業の後背地は、人口密度低く、これら商港の需要に応ずるほど石灰・タバコ・食料品・木材などを供給出来なかった<sup>6)</sup>。ブラウン家の「ホープ熔鋸炉」の銑鉄はイギリスへの支払い手段であった<sup>7)</sup>。ラム酒醸造業や蠟燭製造業は西印度貿易の支払い手段であった<sup>8)</sup>。これらの商業および商業都市の興隆は近隣タウンの農業・牧畜業・手工業を刺激し発展させた。すなわち、農民や、鍛冶屋・ブリキ屋・靴屋・大工などの半農半工の村落手工業者(farmer-artisan, village-artisan)は、まず局地的、次いで外部市場のために生産していた(=局地内分業)が、これと重なりあってもう1つの分業が見られた。すなわち iron-worker, 蠟燭製造工, ラム酒醸造工, 漁夫, コルドバ革職人, 縫帆工, 船大工, chandlers など専ら外部市場のために生産する人々などによる,<sup>9)</sup> いわば仲継貿易型=トラフィック型の社会的分業の発展である。1730年までこの「農業・林業・製造業・漁業・商業貿易混合経済<sup>10)</sup>」が発展して行った。1730~55年には人口増加率は下落したが商業都市プロヴィデンスおよびニューポートのみは発展し、ニューポートは益々

奴隷貿易に依存するようになった<sup>11)</sup>。1750~75年にはロード・アイランドの農業は自然的限界に達し、商業(特にニューポートのそれ)も停滞的になり、人口増加率も益々下落して行ったが、ひとりプロヴィデンスおよびその後背地のみは発展をつづけた<sup>12)</sup>。かくてロード・アイランドは、もはや農業ではなく、[仲継]商業か製造業のいずれかに依存せぬ限り発展しえなくなった<sup>13)</sup>。イギリスの航海条例の強制はロード・アイランドの経済的基礎を危くするものとして商人達を植民地側においやった。独立戦争はニューポートやブリストルに大きな損害を与えた。戦前の決済方法が破壊され、又イギリスの西印度市場閉鎖により市場および原料供給地を喪ったが、ロード・アイランド商人はヨーロッパ、アフリカ、カリブ海および東印度の市場を再び獲得して戦前以上の繁栄を示し、プロヴィデンスはニューポートを凌いで栄えた。しかし戦後のロード・アイランド経済は、戦前と同様に、仲継貿易に極度に依存するという構造から脱け出してはいなかった。1790年以降の貿易不振によってこの矛盾は顕在化した。ロード・アイランド商人は再輸出するため関税に再三反対し、憲法批准に躊躇しつつも、ハミルトン経済政策が商人層に有利であることをいち早く知り、遂に批准

11) Coleman, *Ibid.*, p. 15.

12) Coleman, *Ibid.*, pp. 15~17.

13) Coleman, *Ibid.*, p. 17.

14) Coleman, *Ibid.*, pp. 18~25; Nettels, Curtis P., "The Emergence of a National Economy, 1775~1815", (*The Economic History of the United States*, Vol. II.) New York, 1962. chapters III, IV, V, VI; Jensen, Merrill, *The Articles of Confederation: An Interpretation of the Social-constitutional History of the American Revolution, 1774~1784*. Madison, 1963. pp. 40, 190, 192, 195; McDonald, Forrest, *We the People: The Economic Origins of the Constitution*. Chicago, 1958, pp. 24~25, 37, 321~340, 354~5; Miller, John C., *The Federalist Era, 1789~1801*. New York, Evanston and London, 1960. pp. 3, 25, 102. (Beardの古典的名著 *Economic Interpretation* や East の *Business Enterprise* がこれらの新しい諸研究によって全面的に否定されたとは筆者は考えない。)なお Foster はニューポート商人やナラガンセットのプランター達と、農民および手工業者との対立を指摘している。Foster, William E., *Stephen Hopkins: A Rhode Island Statesman*. Providence, 1884, pp. 6~7, 16. (Jensen, *op. cit.*, p. 40. note 93 より引用。)

6) Coleman, *op. cit.*, pp. 9~10.

7) Coleman, *Ibid.*, p. 10; Hedges, J. B., *The Browns of Providence Plantation*, pp. 123, 155, 157, 162, 173, 178~180, 256, 260, 269~279, 289, 291, 294, 312~4, 329~30; Swank, J. M., *Iron in All Ages*. Philadelphia, 1892, pp. 127~8; Bishop, J. L., *A History of American Manufactures from 1608 to 1860*. 2 vols. Philadelphia, 1868. Vol. I, p. 502.

8) Coleman, *Ibid.*, p. 10; Hedges, pp. 22~46, 75~78, 80~81, 84, 86~122, 168, 173, 220~225, 310~2.

9) Coleman, *Ibid.*, p. 11.

10) Coleman, *Ibid.*, p. 14. 傍点引用者。勿論この "mixed economy" は単なる混合ではなく、質の異った2つの分業=市場が重なりあっているのである。



に賛成するに至った<sup>14)</sup>。これは「海運業・特に国際貿易<sup>15)</sup>」に従事しており、「西部丘陵地帯の辺境の村落においてさえ、農民・手工業者・店舗主の営みは海につながっていた<sup>16)</sup>」、ロード・アイランドの経済構造と商人達の利害を反映している。

19世紀に入ってからロード・アイランドの経済は商業の不振に悩むようになった。従って「海上商業の補助部門として発展し、その繁栄と密接に結付いて発展した<sup>17)</sup>」造船業・ロープ製造業・帆布製造業・ラム酒醸造業・鉄工業者は、海上貿易の衰退につれて、それ以外の事業に活路を求めるか、然らば衰滅するか、何れかの途を選ばねばならなかった<sup>18)</sup>。「大部分の商人達は、時代と共に、それ故に時代に先んじてではなく、転身した<sup>19)</sup>。」

ヨーロッパ貿易は1806年を境に、1808～15年迄不振であった。戦後ヨーロッパ貿易は再開されたが、戦前の水準に迄回復しなかった<sup>20)</sup>東洋貿易も同様の傾向を示した<sup>21)</sup>。カリブ海貿易は個々の取引単位が小さく、アメリカ及びヨーロッパ貿易の中間項的性格をもち自己の余剰生産物を扱うものであったため、ロード・アイランドはその中で大きな役割を演じたが、1815年再開後は以前の水準に迄回復しなかった<sup>22)</sup>。南米貿易はカリブ海貿易と似た性格をもっていて、衣料・食料・木材・皮革・金属製品など輸出し、銀を輸入した。しかし遠距離であったため誰でも参加出来るわけではなく、衰退して行った<sup>23)</sup>。

15) Coleman, *Ibid.*, p. 14.

16) Coleman, *Ibid.*, p. 27. 勿論農民・手工業者は「海につながっていた」とはいえ、局地内分業＝市場につながりつつ、次第に蓄積を重ねて来たことは後段でも明らかである。

17) Coleman, *Ibid.*, p. 33.

18) Coleman, *Ibid.*, p. 33; Nettels, *op. cit.*, chapters V, VI, XI.

19) Coleman, *Ibid.*, p. 38(傍点引用者); Nettels, *Ibid.*, chapters V, VI, IX.

20) Coleman, *Ibid.*, pp. 38～40; Nettels, *Ibid.*, p. 230ff.

21) Coleman, *Ibid.*, pp. 40～48; Nettels, *Ibid.*, p. 205ff.

22) Coleman, *Ibid.*, pp. 44～49. Nettels, *Ibid.*, pp. 226—8, 235—7, 324 ff.

23) Coleman, *Ibid.*, pp. 46～8; Nettels, *Ibid.*, pp. 228～9.

出港停止令以降の国際市場の不安定、アメリカ内部ではニュー・ヨーク市の擡頭により、ロード・アイランド商人は、外国貿易に投機的利益を求める方向に進んだ。穏健な者は沿岸貿易・貨物輸送に後退したが、逆に奴隷貿易<sup>24)</sup>・私拿捕<sup>25)</sup>・捕鯨業<sup>26)</sup>という一層投機的・非合理的な方向に向った者もあった。こうして元来前期的・仲継貿易的性格をもつロード・アイランド商業は、その存在を否定するような条件の到来によって、2つの方向に分解し始めた<sup>27)</sup>。すなわち「合衆国で最も高度に工業化された地域の1つとなった<sup>28)</sup>」後背地の綿業を基盤として発展するプロヴィデンスと、イギリス軍による占領と破壊もさる事ながら、後背地として沈滞した農・漁村しか有たず、「企業家としてのリーダーシップを喪失」し、過ぎ去った植民地時代の繁栄を夢みるのみとなった<sup>29)</sup>」ニューポート、この両者が資本主義の発展に直面したロード・アイランド商業資本が示した2つの対応形態であった。この2形態を、Pease and Niles, "A Gazetteer of the States of Connecticut and Rhode Island."<sup>30)</sup>によりつつ、一層たち入って解明してみよう。この"Gazetteer"は両州の各郡および各タウン毎に、その位置・自然条件・人口・農業・牧畜・製造業・商業・宗教などについて詳細に敘述している。本稿においては、そのロード・アイランドの部のみをとりあげ、これを一覧表(第1表)に整理し、分析する事にした。

#### (1) 遠隔地市場＝局地間分業型

ロード・アイランド州の5つの郡のうち、ナラガンセット湾に位置したニューポートおよびブリストル両郡では、鍵産業たる綿業・毛織物業・鉄工業を殆んどもたず、若干の製粉場 grain mill

24) Coleman, *Ibid.*, pp. 51～57.

25) Coleman, *Ibid.*, pp. 57～61.

26) Coleman, *Ibid.*, pp. 61～64.

27) Coleman, *Ibid.*, pp. 64～5.

28) Coleman, *Ibid.*, p. 67.

29) Coleman, *Ibid.*, p. 68, 70.

30) Pease, John C. and Niles, John M., *A Gazetteer of the States of Connecticut and Rhode Island*,……. Hartford, 1819. pp. 305～389.

第1表 19世紀初頭ロード・アイランド州の社会的分業=市場の構造

郡 タウン	入植年度	設立年度	戸数	人口	農業 その他	cotton							
						factory	spindle	water loom	weavig shop	machine shop	bleaching estab.	dye house	
Providence	Providence	1636	1636	約1,300	10,071		5					2	3
	Burrellville		1806	約 300	1,834	酪農に適す							
	Cumberland	1710	1746	306	2,110	hill town	8	5,524	12 30				
	Cranston		1754	320	2,161	hill town 木材, 牧畜	7	4,000	12				
	Gloucester	1700	1730	約 400	2,310	乾草, 穀類, 林檎酒, ジャガ蕪	4	2,000					
	Foster		1730 (西部の み1781)	約 400	2,601	hill town 木材, 牧畜	1						
	Johnston		1759	238	1,516	hill town 石材, 牧畜	4	1,500 612 280 (wool用)	12			6	
	North-Providence		1767	316	1,758	hill town 石材	10						
	Scituate Smithfield		1731 1730	約 400 500以上	2,568 3,828	hill town 牧畜 豊富な石灰石	4 9	11,000 (その半分はSlater工場)					
Newport	Newport		1639	1,100	7,097	肥沃, 漁業							
	Jamestown	1674	1678	約6,070	504	肥沃, 牧畜(羊)							
	Little-Compton		1747	約 230	1,553	肥沃, 農耕, 海運							
	Middletown		1743	約 160	976	酪農, 穀物, 果実							
	New-Shoreham	1661	1672	128	722	漁業, 農耕							
	Portsmouth Tiverton		1663 1747	約 250 約 400	1,795 2,837	漁業, 酪農, 農耕, 果実 漁業, 酪農, 農耕	1 2						
Bristol	Bristol		1747	約 450	2,693	商業, 漁業, 農耕							
	Barrington		1771 (1770?)	約 100	604	農耕							
	Warren		1746 (1747?)	約 230	1,775	商業							
Kent	East-Greenwich		1677	210	1,530	漁業, 沿岸商業	1	340					
	Coventry		1741	350	2,929	hill town, 酪農	12	10,000					
	Warwick		1643	520	3,757		15	17~ 18,000					
	West-Greenwich		1741	約 220	1,619	農耕, 人口頂点 1790~1800年	5	2,000 ×5				1	several
Washington	South-Kingston	1670頃	1723	約 400	3,560	農耕, 牧畜, 漁業							
	Exeter		1743	311	2,254	農耕, 牧畜	2	360×2					
	Charlestown	1669頃	1738	約 220	1,174	hill town	広汎な家内綿織物						
	Hopkinton	1660頃	1757	230	1,774	農耕, 牧畜							
	North-Kingston		1674	391	2,957	農耕, 漁業, 沿岸貿易	2	1,164					
	Richmond		1747	約 230	1,330	牧畜(羊)	3						
	Westerly		1669	250	1,910	酪農, 海運, 造船	1	1,000					

を除けば、沿岸商業・海運業・漁業とむすびつくラム酒およびジン醸造場やズックおよびローブ製造場、造船業、製塩業など、いわゆる「トラフィック」型工業が多く、店舗や倉庫も多数にのぼっている<sup>31)</sup>。この種のタウンの内部またはそれをと

りまくタウンで、農業・酪農・果樹栽培などが営なまれ、タウンによりその組合せのニュアンスを異にしていた。しかし、いずれにせよ、これらは植民地時代以来の仲継商業="maritime economy"の残存形態であり、資本制生産の発展につれて衰退して行くべきものであった。

31) 例えば、ニューポートは140の店舗を有し、プロヴィデンスに次ぐ地位を占めていた。またプリストルは21の倉庫を有していた。

(2) 局地的分業=市場型



woolen factory	carding machine	clothiers' work	woolen stoking estal	forge	slitting mill	trip-hammer shop	nail factory	gun factory	anchor shop	screw mfy.	soyth mfy.	saw mill	tan-nery	jewelry shop
2		2												10
1	2	2					1							
1		2												
3		2												
1	1	1				2						13	3	
1	1	1		2	1		1		2	2				
		2						1			2			
		1(?)												
													4	
2		2												
		2												
2		2												
		1												
1		2												
		1	年産 3,000足											
3		2		2								10		
2		3												
1		1												
1		1										1	2	

この遠隔地市場＝局地間分業型の2郡に対して、プロヴィデンス郡、ケント郡およびワシントン郡では異なった社会的分業のあり方を示している。まず綿工場が上記3郡にそれぞれ52, 33, 8工場見られ、タウンの戸数に比して高い密度を示している。またワシントン郡チャールスタウンでは綿工

場こそ見られないが、大量の家内綿織物が他の諸タウンの綿工場のために生産されていた<sup>32)</sup>。その他のタウンでも指摘こそされていないが、綿工場内に織布工程が含まれない場合は、織布工程はこういう問屋制下の外業部生産者か、綿糸を購入する独立織布工によって行われざるをえないであろう。研究史はニュー・イングランド南部の綿業において、広汎な外業部又は独立の織布工の存在

32) Pease and Niles, *Gazetteer*, p. 381.

paper mill	grain mill	oil mill	marble mill	rum distillery	gin distillery	duck factory	rope walk	spermaceti works	salt works	ship or boat building	store	warehouse	bank	life insurance
1	1	1		4	1		3	2			245		7	6
	6		1							19	5		1	
	6				1						7		1	
	6										6		1	
	11										7			
	5										6			
	3										14			
	9			(?)							5		1	
1	11			2							11		2	
	5			7	1	1	5			"to some extent"	140		5	2
	6										4			
	8										4			
	6										8			
	3			2			2		1			21		
	3			1	1						30			
1	5										20	6	1	
	10										16			
	12										23		2	
	10										9			
	8										8		1	
	10										6			
	5										7			
	6				1						35			
	6										7			
	1									considerable	8		2	

を指摘している<sup>33)</sup>。但し, "Gazetteer" はプロヴィデンス郡の若干のタウンの綿工場に12台ないし30台の水力織機を備えていたと指摘している。また財務長官マクレーンの『製造業報告書』(1832

年)には, ニュー・イングランドの家内生産の没落についての証言が多数収録されている<sup>34)</sup>。毛織

33) 拙著『アメリカ資本主義の成立』第3篇第3章参照。とりあえず Ware, Caroline F., *The Early New England Cotton Manufacture*. Boston and New York, 1931, chapters II, III, IV. をあげておく。

34) *Documents relative to the Manufactures in the United States*. 2 vols. Washington, 1833. (以下 *McLane, Report on Manufactures*. と略称する) Vol. I, Document 8, No. 3, Q 38 (p. 940); No. 10, Q 38 (p. 946); No. 21, Q 38 (p. 954); No. 23, Q 38 (p. 956); No. 28, Q 38 (pp. 958—9); No. 30, Q 38 (p. 961); No. 31, Q 38 (p. 962); No. 38, Q 35—40 (p. 967); No. 39, Q 38 (p. 969).



物業もこれら3郡に広く分布し、毛織物製造および「織元の職場 clothiers' work」(=縮絨場?)が各タウンに1~3づつ平均して見られる。これは各タウン内部で相当程度に毛織物生産が行われていたことを示している。また鉄加工業はほぼプロヴィデンス郡ノース・プロヴィデンスに集中している。トラフィック型の各種工業は古い商業都市プロヴィデンスにほぼ集中していて、プロヴィデンス郡のカンバーランドの造船業を除くと、他のタウンには殆んど見られない。これらの工業タウンの内部およびこれをとりまくタウンでは、農業、酪農・牧羊、木材・石材生産が営まれていて、相互に社会的分業をおこなっていた。プロヴィデンス郡にはPabst女史のいわゆる「丘陵タウン hill town」=「工業タウン industrial town<sup>35)</sup>」型のタウンが多く、ワシントン郡ではやや漁業・海運業・造船業への傾斜が見られ、ケント郡は地理的にも、類型的にもその中間形態をなしていたといえよう。

このように、ニューポートおよびブリストル両郡が前期的仲継貿易への依存から脱出できなかったのは、その経済構造が、仲継貿易によって「トラフィック」型の社会的分業にいち早く傾斜して了っていて、もはや均衡のとれた直接生産者相互間の分業圏=市場圏を内部から形成する事が出来なくなっていたし、その自然的条件をも欠いていたからである。これに対してプロヴィデンス、ケントおよびワシントンの3郡では、当初は多かれ少かれ、ニューポートおよびブリストル両郡に似た社会的分業を示していた。特に商業都市プロヴィデンスではこの傾向が顕著であった。しかるにこのプロヴィデンスをも含めて3つの郡では、綿業・毛織物業などの大衆向工業が発展し、プロヴィデンスには繊維工業などの為の機械工業さえおこるに至った。これは、プロヴィデンス周辺および内陸農村に、直接生産者型の社会的分業が展開

35) Pabst, Margaret Richards "Agricultural Trends in the Connecticut Valley Region of Massachusetts, 1800~1900", *Smith College Studies in History*, Vol. XXVI, Nos. 1~4. Northampton, Oct. 1940~July, 1941) pp. 4~9, chapter III (pp. 30~46), (pp. 67~84).

して居たからである。いまプロヴィデンス郡、ケント郡およびワシントン郡の綿業の発展を、綿工場・紡錘・資本金・織機・雇用労働者・生産額について見ると、全般的に1840年を頂点として、1850, 1860年度にはやや停滞的な傾向が見られる。これは、1847年および1857年の恐慌から回復し切れないうえである。しかしこの2つの恐慌を機として、漸次衰退の途を辿るタウンと、工場数が必ずしも増大しないにも拘らず資本金・労働者数・生産額においては反って増大して行くタウンが見られる。このことから明らかなように、恐慌を媒介として綿業には集中化が進行した。こうしてProvidence, North Providence, Cumberland, Cranston, Scituate, Smithfield, Warwickなどが、綿業都市として急速に発展し、これらの綿業都市を含む三都はブリストル郡およびニューポート郡を圧倒し、ロードアイランド経済はここに構造転換するわけである。

このような綿業の発展を担った者は誰であろうか。「工場制度の父」サミュエル・スレイターは、1832年財務長官マクレーン宛の報告書の中で綿業の3つの類型を指摘している<sup>37)</sup>。すなわち、第1は「出資者、親方又は雇用主および労働者の三重の能力を一身にかねそなえた者」。ニュー・イングランドの小生産者、たとえば富裕な農民、製粉・製材場主、縮絨工、鍛冶屋、大工など、イギリスおよびスコットランドからの移住熟練工が単独またはパートナーシップを形成して、小綿工場を設立する場合である。第2は「自己の資金は持たぬが、自らの勤勉と熟練と思慮をもって商人などからの借入資本で製造業を営み、自ら監督し、またはげしい労働によって、借入金への利子を支払った後、総収益のかなりの部分を蓄えた者」である。この第2の類型は「19世紀の最初の30年間にニュー・イングランドや中部諸州に多数あった

36) Coleman, *op. cit.*, Table 5, 6, 7, 10, 11, 12 より作成。拙著『アメリカ資本主義の成立』第3篇第3章より抜粋した。

37) McLane, *Report on Manufactures*, Vol. I, Document 8, No. 1. *General Summery for Rhode Island* by Samuel Slater. (pp. 927~932); 拙著, 第3篇第3章参照。

小紡績工場や同様の企業に」特に多く見られるもので、小生産者と商業資本の過渡的連繋形態である。第3に自らは他の仕事に従事し、製造業の純利潤のみを投資し、製造業は他の監督に任せておく者である。これは出港停止令及び第2次英米戦争以降の貿易不振によって、ボストンその他の大商業資本がその投資分野の1つとして巨大一貫制綿工場を設立した如きがそれである。この3つの種類の綿業のうち、第3の種類はすぐれて前期的・土地投機的・利子取得者的・商業独占的性格をもち、技術革新を無視した高率配当によって

資本蓄積を阻害したため、数度の不況期に大きな打撃を受け、ある企業は倒産し、然らざる企業でも原出資者が次第に後退し、資本的にも経営的にもその比重を益々減じていった。これに対して第1および第2の種類は、直接生産者を生産担当者および出資者とし、商人および地主から資金および流通面の援助を受けつつ、ニュー・イングランド南部綿業発展の中心的役割を演じた。そしてさきに分析したロード・アイランド綿業の発展の担当者は実にこの第1および第2種類の綿業資本家および労働者であったのである。(1965.10.15)